

令和5年（2023）9月4日～9月7日

令和5年度（2023）

第3回出雲市議会(定例会)
一般質問通告一覧表

令和5年度（2023）第3回出雲市議会（定例会） 一般質問通告一覧表 目次

9月4日（月） 10:00 開会			9月5日（火） 10:00 開会			9月6日（水） 10:00 開会			9月7日（木） 10:00 開会		
順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ
1	福島孝雄	3	1	大場利信	9	1	宮本 享	16	1	伊藤繁満	23
2	高橋 扶治夫	4	2	西村 亮	10	2	湯浅啓史	17	2	今岡真治	24
3	大谷良治	5	3	後藤由美	11 12	3	南 浩二	18	3	寺本淳一	25
4	鐘推義憲	6	4	板倉一郎	13	4	吉井安見	19 20			
5	福田 実	7	5	児玉俊雄	14	5	木佐 宏	21			
6	石橋広信	8	6	錦織 稔	15	6	本田一勇	22			

質問者	20 福島孝雄
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市の農業の動向について	
<p>① 令和5年産米の動向を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 作付面積の動向（前年度比較） イ 米価予測 ウ 現在の在庫状況 <p>② 生産資材（肥料・燃料等）コスト上昇について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 生産資材コストの動向 イ 今後の物価高騰対策 <p>③ 水田の畑地化促進事業の実施状況と今後の取り組みについて伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 畑地化支援実施面積及び、未実施面積（保留面積） イ 支援金の交付手続きのスケジュール <p>④ 有害鳥獣対策について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア アナグマ・アライグマ・ハクビシンの生息・被害・捕獲状況 イ 小型鳥獣捕獲わなの数と出雲市の被害防止の考え <p>⑤ トキの野生復帰に向けての環境整備を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 候補地域における耕作放棄地での餌場確保（ビオトープ）への支援 	
(2) 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）の住宅整備について	
<p>① 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 出雲市の土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）指定箇所数 イ レッドゾーン区域での住宅整備状況 島根県・出雲市 ウ 補助制度の内容 <p>② 同区域での住宅整備が困難な場合の代替え地について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 新築する際、自身の土地に代替え地が無い場合、隣接する自身の水田（農振地域）を宅地に転換できるのか伺う。 イ レッドゾーンを抱える地域の将来的な維持についての市の考えを伺う。 	

質問者	7 高橋 扶治 夫
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市のWi-Fi環境の整備状況について	
<p>① 近年、行政手続のオンライン化、窓口業務でのタブレット活用、議会資料のペーパーレス化などWi-Fiを必要とする場が大変増えてきています。出雲市がWi-Fiを提供する場合、大きく3つの利用目的が考えられます。(1)観光振興 (2)防災対策 (3)行政サービスや住民サービスの向上によるまちづくりです。それぞれが充実していけば、Wi-Fi環境の整った市としてイメージもさらにアップし、関係人口の増加につながってくると思います。そこで、出雲市のWi-Fi環境の整備状況について、次の3点質問致します。</p> <p>ア 観光客や訪日外国人観光客向けの市内観光地におけるWi-Fi環境の整備状況について伺います。</p> <p>イ 災害時の指定避難所におけるWi-Fiの活用について現状を伺います。</p> <p>ウ 出雲市の公共施設全般について、Wi-Fi環境整備の現状と課題について伺います。</p>	

質問者	16 大谷良治
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市立朝陽小学校の開校後の状況について	
① 開校2年経過後の学校の様子と課題について ア 児童・教職員・通学路・環境など イ 閉校した学校跡地についての状況（管理や跡地利用等）	
(2) eスポーツの活用について	
① eスポーツの活用について ア 市としての活用方法の検討 a 企業と連携したeスポーツの支援の検討 b 各分野での検討（福祉・通いの場等）	

質問者	6 鐘 推 義 憲
質問事項・質問内容	
(1) 『出雲市都市計画マスタープラン』について伺う	
<p>① 『都市計画マスタープラン』は、長期的視点に立った都市の将来像を明確にし、その実現に向けた大きな道筋を明らかにするもので、都市計画法第18条の2において『市町村の都市計画に関する基本的な方針』として定められています。本市においては、平成17年3月の新設合併を受け、平成22年2月に『出雲市都市計画マスタープラン』が策定され、その後、平成23年10月の斐川町の編入合併により、平成25年9月に『出雲市都市計画マスタープラン(斐川地域)』が補完する形で策定されています。</p> <p>そして先般、令和5年度の市長施政方針では、今年度から2年をかけて、新たな『出雲市都市計画マスタープラン』の策定に着手し、令和6年度末の完成を目指すと発表されました。</p> <p>そこで、本市における現行の『出雲市都市計画マスタープラン』及び次期『出雲市都市計画マスタープラン』について、次の通り伺います。</p> <p>ア 現行の『出雲市都市計画マスタープラン』</p> <ul style="list-style-type: none"> a 都市づくりの分野別整備方針の取組状況及び進捗状況について b 前回の市民アンケート調査での意見に対する取組状況について <p>イ 次期『出雲市都市計画マスタープラン』</p> <ul style="list-style-type: none"> a 策定の体制とロードマップ、住民参加の方法について b 市民アンケート調査について c 本市の現況と都市づくりにおける主要課題について d 目標年次について e 本市の将来人口及び将来都市像について f 分野別都市整備の方針について g 新たに対応すべき課題・重点化すべき課題について <ul style="list-style-type: none"> i 持続可能性や地球環境に配慮した取り組み(SDGsと脱炭素社会への取り組み) ii 空き家の適正管理 iii 公共建築物及び公共インフラ施設の適正な維持管理 iv 自然災害に対する備えの強化(河川の整備・改修等) v 「コンパクト・プラス・ネットワーク」の取り組み <p>ウ 島根県の『都市計画区域マスタープラン』</p> <ul style="list-style-type: none"> a 出雲都市計画区域の整備、開発及び保全の方針について b 内容の見直しについて 	

質問者	3 福 田 実
質問事項・質問内容	
(1) 中学校の部活動新人戦中止と今後の部活動のあり方について	
<p>① 中学校部活動の中での、新人戦の位置づけをどの様に考えておられるか伺います。</p> <p>② 中学校新人戦が、中体連の中だけでの議論で中止に至った経緯をお聞かせください。</p> <p>ア 松江市、安来市で行っているのに、出雲市で行わない理由をお聞かせください。</p> <p>イ 保護者、生徒、各地区地域学校運営理事会との議論はしっかり行われたのか伺います。</p> <p>ウ 他に新人戦を開催する方向での話、意見があったのか伺います。</p> <p>エ 子どもたちの部活動での情熱を傾ける場が、一つなくなったことに対してのお考えがあればお聞かせください。</p> <p>③ 部活動の今後のあり方と、部活動地域移行の進め方の考えをお聞かせください。</p> <p>④ 教育の中での部活動を、どのように考えておられるのかお聞かせください。</p>	

質問者	5 石橋 広 信
質問事項・質問内容	
(1) 投票所を誰もが投票しやすい環境にする取り組み	
<ul style="list-style-type: none"> ① 支援が必要な障がい者、高齢者の方々の投票時の困りごとの内容 ② 困りごとの内容に対して取り組まれた対策 ③ 今後の障がい者、高齢者の方々の投票に関する課題 ④ 誰もが投票しやすい環境づくり（他地域の先行事例）その1 「投票支援カード」の取り組みについて 「代わりに書いてほしい」「候補者名を読んでほしい」「候補者名を書いた紙や名刺を見て書いてほしい」など6項目が記載されており、HPよりダウンロードできる。 ⑤ 誰もが投票しやすい環境づくり（他地域の先行事例）その2 「コミュニケーションボード」の取り組みについて 投票所内で予想される困りごとや、手伝ってほしいことを絵や文字で表示したもの ⑥ 誰もが投票しやすい環境づくり（他地域の先行事例）その3 「簡易スロープ導入」の取り組みについて 	
(2) 行かない窓口の実現と来庁者への対応について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 出雲市役所に来庁される方々の状況 <ul style="list-style-type: none"> ア 年間の来庁者 イ 一人平均の滞在時間と訪問窓口数 ウ 来庁時の困りごとの声 ② 書かない窓口の取り組みの現在の進捗状況 ③ 行かない窓口に関して他地域の先行事例 <ul style="list-style-type: none"> ア オンライン対応の事例 法令などによりオンライン化の対象外とされている手続きを除き、全ての行政手続き908件のオンライン化 イ リモート窓口開設の事例 市内に10か所ある支所全てにテレビ会議システムを導入し本庁と結ぶ ウ 政府支援の事例 デジタル庁の専門家を自治体へ派遣する事業の活用 ④ マイナンバーカードやスマートフォン等を持たない方々、また、デジタルの苦手な方々に対しての今後の行政の窓口の対応 	

質問者	22 大場利信
質問事項・質問内容	
(1) 市内への情報拠点の創設と高度IT人材誘致について	
<p>① 昨年の12月議会でパルメイト出雲の1階をIT企業スタートアップ支援施設として改修に着手する旨の表明、今年の3月議会の施政方針での「Tech Hub Izumo」構想の表明、そしてそれを具体化するための準備作業が現在進められています。</p> <p>出雲市は、高度医療の拠点として多くの医療機関が集積し市民の健康増進に寄与し、また斐川地域を中心に先進的なものづくり産業が集積し、市民の雇用の場の確保や外国人の定住に寄与しています。そして現在進められている「Tech Hub Izumo」構想は更に情報産業と高度IT人材の集積をもたらすもので、市全体の産業の活性化や人口の更なる増加をもたらすものと考えます。今後の出雲市の発展に大きな効果をもたらす「Tech Hub Izumo」構想が順調にスタートし、持続していくことが肝要であると考えます。このような観点から以下伺います。</p> <p>ア 「Tech Hub Izumo」構想の内容と推進の意欲について改めて伺います。</p> <p>イ 新設された情報拠点と他の企業間との連携・協力により効果が発揮され则认为えます。この点について2点伺います。</p> <p> a 日御碕サテライトオフィスの充足状況</p> <p> b 都市圏IT企業や誘致IT企業との連携</p> <p>ウ 7月に実施された東欧のアルメニア共和国への海外視察において、出雲市が出資する(株) People Cloudの高度IT人材紹介事業について現地で説明されたと聞いています。これについて以下伺います。</p> <p> a 東欧地域に人材を求められた理由</p> <p> b 現在の誘致見込人数と交渉結果</p> <p> c 日本語支援および家族、特に児童生徒への教育支援</p> <p> d 東欧地域との多文化共生施策</p> <p>エ 最後に、将来的に、希望する出雲市内の市民・学生・ITエンジニアの高度IT人材への育成・採用について伺います。</p>	
(2) 官民連携による地域課題解決検討プロジェクトについて	
<p>① 市は「出雲新話2030」に掲げる各施策を一層効果的に実践していくため、全庁的に地域課題を可視化することにより、民間企業から知見やDX等の提案を受け、民間と連携し課題解決等を図るため、このプロジェクトを立ち上げられました。官民連携し課題を解決するという手法には賛成しますが、これについて何点か伺います。</p> <p>ア 従来から個別案件ごとに民間から提案を受け、施策を実現しておられますが、全庁的に地域課題を可視化された理由を伺います。</p> <p>イ 「地域課題の可視化」の意義を伺います。</p> <p>ウ マッチング案件の絞り込み・選別時の「外部の専門家」の役割を伺います。</p> <p>エ 現時点で課題が各課から出ていると思いますが、その状況と今後のスケジュールを伺います。</p>	

質問者	21 西村 亮
質問事項・質問内容	
(1) 少子化対策に係る課題	
<ul style="list-style-type: none"> ① 結婚までの出会い等具体的な支援策 積極的な取り組みと課題 ② 産前産後の医療ケア 育休、職場復帰等支援、助成策 ③ 出産一時金等 子育て施策の拡充 祝金が必要不可欠 ④ 子どもに関するあらゆる支援策 助成等の拡充 ⑤ 子どもの医療費の無料化 教育の充実と教育費の無料化 ⑥ 子育てするなら出雲 定住するなら出雲のキャッチフレーズで今後具体的にどのような施策を推進、拡充が必要不可欠か ⑦ 出生数の増加に向けた具体的で積極的な施策は 	
(2) 公共事業に係る入札制度の現況	
<ul style="list-style-type: none"> ① 公共事業に係る入札の不調、不落の要因 ② 不調、不成立の今後の課題、対策（善後策） ③ 建設業者等 監督、指導 話し合い（会議）の現況 ④ 災害復旧事業と今後の方針と課題 ⑤ 働き方改革の在り方 指導 会議等の現状 	

質問者	11 後藤由美
質問事項・質問内容	
(1) 公共事業は、災害から命と安全を守る防災・減災対策を最優先に	
<p>① 7月8日からの大雨災害により、河川の氾濫にともなう住宅等への浸水、護岸の崩壊、道路の法面崩壊など多くの被害が発生しました。一昨年の豪雨による災害復旧工事が終わらない中、再び同じ地域で浸水被害や土砂災害などが発生しています。今後も気候変動により激甚化・頻発化が予想される災害に対し、市民の命・安全を守るために従来の延長線上ではない、早急で抜本的な対策が求められています。そこで伺います。</p> <p>ア 昨今の災害に対応した防災・減災対策のための公共土木事業予算が必要と考えますが、市内の河川改修・維持修繕、道路整備、土砂災害対策など、現在の事業計画をすべて行うには、今後どれだけの予算と期間を要するのか伺います。</p> <p>イ 公共土木事業は新規の大型事業などではなく、災害から住民の命と安全を守る事業＝災害に強いまちづくりのための事業こそ最優先に実施するべきです。現在計画中の河川改修・維持修繕、道路整備、土砂災害対策などに予算と人的資源を重点配分し、さらに、今後の災害に対応した抜本的対策が必要であると考えます。市の所見を伺います。</p>	
(2) 上津地区の要望である宇那手川のしゅん濇、水門開閉基準見直しについて	
<p>① 8月、上津・稗原・朝山・乙立の地域で構成されている「南部ブロック自治連絡協議会」から市長に対し要望書が提出されました。その中で、昨今の豪雨対策として緊急に改善が求められる上津地区から出された要望について伺います。</p> <p>ア 宇那手町から船津地区に流れる宇那手川は土砂と樹木で覆われ、およそ川とは言えないほどで、船津地区の洪水被害の要因にもなっています。堆積土の撤去、樹木の管理などが急がれています。県への要望含め、今後の見通しを伺います。</p> <p>イ 平常時宇那手川の水は1号排水門により斐伊川へ水を流しますが、増水時には1号排水門を閉じて斐伊川の水の逆流を防ぎ2号排水門を開け斐伊川放水路側に流すことになっています。しかし、今の2号排水門開閉基準では船津地区の洪水対策として問題があるとして、見直しの要望が出されています。出雲河川事務所に対策を急いで求めることが必要です。所見を伺います。</p>	

(3) 廃止される平田体育館利用者の今後について

① 出雲市新体育館＝出雲市総合体育館が来年4月に開館予定ですが、その後5年以内に平田体育館、斐川第2体育館の廃止を2019年11月に作成した「出雲市体育施設個別施設計画」で決定しています。それ以来、とりわけ旧平田市内に一つしかない平田体育館利用者からは存続を求める声が強くなり、質問で繰り返し存続を求めてきましたが、新たに建設することはないとの答弁でした。いよいよ来年4月に出雲市総合体育館が開館となり、平田体育館利用者のスポーツ活動をどう保障していくのかが、問われる局面になっています。そこで伺います。

ア 平田体育館利用者は2018年度年間3万人以上で、卓球・剣道・バスケット・バドミントン・バレーボール・スポンジテニスなど各種大会は年60回以上開かれています。現在の利用者が平田体育館廃止後も100%活動を保障できるよう、市としてどういう計画を持っているのか、伺います。

イ スポーツに親しみ生きがいを感じている市民、スポーツ団体・サークルを主体的に運営している活動を今後もきちんと保障するために、市は平田体育館利用者、関係団体等の要求を聞き、対策をともに考える必要があります。利用者団体全体との会議の開催を求めます。所見を伺います。

質問者	27 板倉一郎
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市の製造業の現状と支援について	
<p>① 5月8日以降、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が現在の「2類相当」から、季節性インフルエンザと同じ「5類」に変更されてから、人の様々な活動が活発になり、出雲市でも賑わいが復活してきたように考えます。</p> <p>景気が上向いている業種もありますが、国内需要向けの製造業のなかには、いまだに売れ行き不振で苦しんでいる状況があります。円安などによる原材料価格の高騰に伴うコスト上昇や、食料品や燃料などの生活必需品の価格高騰に伴う消費者の購入意欲の低下など様々な要因が考えられますが、その現状を把握し対策を講ずる必要があると考えます。そこで次の点を伺います。</p> <p>ア 製造業の状況をどのように把握しているのか伺う。</p> <p>イ 出雲市の現状の対策について伺う。</p> <p>ウ 今後の対策について伺う。</p>	
(2) 出雲市の内水氾濫対策について	
<p>① 旧出雲市内では、斐伊川神戸川治水事業により洪水による浸水被害の恐れは、少なくなってきたと考えます。しかし、最近の局地的な大雨による降水量の増加や田畑の宅地化により市街地の内水氾濫の発生が増えてきたと考えます。そこで、次の点を伺います。</p> <p>ア 旧出雲市内の内水氾濫の現状について伺う。</p> <p>イ 内水氾濫の対策のうち河川改修などハード対策について伺う。</p> <p>ウ 内水氾濫のソフト対策について伺う。また、内水ハザードマップを作成する考えはないか伺う。</p>	

質問者	12 児玉俊雄
質問事項・質問内容	
(1) 今後の市立幼稚園のあり方について	
<p>① 昨年度行われた「市立幼稚園のあり方検討ワーキング会議」において具体的にどのような調査・分析が行われ、それによる課題整理のポイントは何だったのか伺います。</p> <p>② 本年7月に「今後の市立幼稚園のあり方について」諮問された「出雲市教育政策審議会」の所管課は教育政策課ですが、子ども未来部や幼児教育審議会との関係はどのようなになっているのか伺います。</p> <p>③ 今回のあり方検討は平成24年に出された「出雲市立幼稚園の閉園に関する方針」の見直しも含めたものか伺います。</p> <p>④ 保護者に対するアンケート調査を実施されているということですが、その意図や対象者など調査の概要を伺います。</p> <p>⑤ 今後の幼稚園のあり方として、郊外型幼稚園や送迎保育ステーションの取組みに関心を持っていますが、市はどのような考えをお持ちか伺います。</p>	
(2) 山陰道スマートインターチェンジと物流拠点の整備について	
<p>① 物流業界の「2024年問題」の本市への影響をどのように分析されているのか伺います。</p> <p>② 「2024年問題」に関わる市内の動きと市の対応策を伺います。</p> <p>③ 物流の効率化に資する物流拠点（流通センター）の整備に対する市の考えを伺います。</p>	

質問者	13 錦織 稔
質問事項・質問内容	
(1) デジタル地域通貨の導入を	
<p>① 自治体におけるデジタル地域通貨の導入が進んでいます。地域内だけに流通し、地域内でデジタル通貨が循環する仕組みであり、スマートフォンの普及により利便性の向上も期待できます。デジタル地域通貨の推進を検討し、市の発展に貢献する取り組みを行うことが重要と考えますが見解を伺います。</p> <p>② 今後、市のポイント事業と連携することで事業の効果も向上すると考えるが見解を伺います。</p>	
(2) 視覚障がいのための「音声コード」の利用促進について	
<p>① 全ての障がい者が、障がいの有無によって分け隔てられることのない社会を目指し、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が2022年5月に施行されました。視覚障がい者にとってインターネット情報は貴重な情報源であり、総務省の調査によりますと視覚障がい者のうち9割を超える人が利活用し、一方で視覚障がい者の手帳を持っている人のうち点字が読める人は限られています。「音声コード」はスマートフォンのアプリでも読み取ることができます。ホームページや市の広報、市からの通知書など、紙媒体に視覚障がい者のための「音声コード」を貼付し、利用促進につなげるべきと考えます。本市の取り組みを伺います。</p>	

質問者	29 宮本 享
質問事項・質問内容	
(1) 指定管理者制度について	
<p>① 指定管理者制度導入の経過とメリットについて改めて伺う。</p> <p>② 本市における近年の指定管理者の応募状況について、特に複数応募と1者応募の状況、1者の指定管理者が長年受託している状況、なぜ複数応募がないかその原因を伺う。</p> <p>③ 複数応募があり、従前の管理者ではなく、違う管理者が選定された例は何件あるのか伺う。</p> <p>④ 本市の指定管理者制度において、制度本来の目的である競争原理がきちんと働いているかについて、市としてどう分析しているのか、長年にわたって受けてきた管理者は、どうせ自社しかできないと、なすべき経営努力や自主事業の工夫が疎かになってはいないか、運営や事業がマンネリ化していないか、利用者の増加につながっているか等の課題、弊害が生じていないか伺う。また、それ以外の課題、弊害がないか伺う。</p> <p>⑤ 今回打ち出された見直し方針で、本当に課題解決に至るとお考えなのか、今後、さらなる見直しを検討する考えはないのか、例えば、同じ管理者は連続2期までとする上限設定、総務常任委員長報告でも提案のあった市外事業者の参入や複数施設をまとめることによる一括管理の方法など抜本的な見直しはしないのか伺う。</p>	
(2) 若年層の人口動態とふるさと教育について	
<p>① 本市における今後の人口動態、特に将来を担う若年層の人口動態をどのように予想・分析しているか。</p> <p>② 近年の本市における、高校卒業後の動向について</p> <p>ア 県外に進学・就職する人数と割合</p> <p>イ 県内に進学した人が、卒業後県外に就職する人数</p> <p>ウ 県外に進学した人が、Uターンして市内に就職する人数</p> <p>エ 差引、毎年何人の若者が減少していると分析しているか</p> <p>③ 小中学校におけるふるさと教育の状況について</p> <p>④ 市内高校におけるふるさと教育の状況、県外流出防止、今後の取り組みの充実について</p> <p>ア 市として行う高校生へのふるさと教育の取り組みの状況</p> <p>イ 市内高校生に対する県内進学・就職の促進</p> <p>ウ 県外進学者に対するUターンの促進</p> <p>エ 県外就職者に対するふるさと出雲への貢献の働きかけ</p> <p>オ 今後の取り組みの充実</p>	

質問者	18 湯 淺 啓 史
質問事項・質問内容	
(1) 電子地域通貨導入とデータ活用の取組みを伺う	
<p>① 電子地域通貨の導入は、地域消費促進、消費喚起、地域経済の循環促進、観光促進策として全国で多くの事例が進んでいる。また、医療検診給付（特定検診、がん検診）、出産、子育て給付、ボランティアポイント付与の他、税、手数料の支払いに活用されている事例もあり、スマートフォンのアプリで様々なサービスを楽しむ体制づくりに貢献し、デジタル基盤整備の先駆的取組みとして有効であるとされている。</p> <p>出雲市では、令和4年8月に新型コロナウイルス感染症経済対策事業としてキャッシュレスポイント還元消費喚起事業が行われた。また、出雲市中小・小規模企業振興モデル事業として採択・実施された、「出雲市内資金循環促進ワーキンググループ」の「持続的な出雲市内における資金循環型経済圏域創造事業」が令和4年度事業で3年間の取組みを終えられ、スマホ決済アプリ（J-Coin）による実証事業を令和4年10月に実施されている。</p> <p>ア 電子地域通貨導入に向けた対応はどのような状況か イ デジタル技術を取り入れた行政サービスの変革の中で、データの活用をどのように位置づけているのか</p>	
(2) 市の財政状況を伺う	
<p>① 令和4年度は市税収入が240億円を超えたとのことだが ア 個人市民税、法人市民税、固定資産税、収納率はどのような状況か イ 増収の要因をどのように分析しているのか</p> <p>② 市債残高について ア 市債残高はどのような状況か イ 将来的に市債残高をどの水準にすべきなのか</p>	

質問者	2 南 浩 二
質問事項・質問内容	
(1) 有機農業の推進について	
<p>① 環境にやさしい農業研究会（仮称）のその後の状況について伺います。</p> <p>② 今後、有機農業を含め環境にやさしい農業をどのように推進していかれるのか、現在の出雲市の状況も含めた考えと、全国オーガニック給食協議会に加盟した意義及びこの協議会の理念と目標について伺います。</p> <p>③ 出雲市が有機農業を推進していく上で様々な関係者とともにアクションプランのような計画を策定する必要があると考えますが見解を伺います。</p> <p>④ 農家の協力を得て有機米を生産してもらい、学校給食を通じて子どもたちに市内産有機米を食べてもらう試みをしてはどうかと思いますが、それに対する市としての考えと想定される課題及び仮に学校給食で市内産有機米100%を目指そうとした場合に必要となる作付け面積がいくらになるのか伺います。</p>	

質問者	1 吉井安見
質問事項・質問内容	
(1) 使用済み核燃料の処理について	
<p>① 8月8日、中国電力は「島根原発1号機廃止措置計画変更に係る事前了解願」を立地自治体である島根県や松江市に提出した。出雲市をはじめ周辺自治体に対しても、「島根原子力発電所に係る安全確保等に関する協定」に基づく報告が行われた。</p> <p>わが党は、原発の廃炉には賛成である。しかし、中国電力の廃止措置計画は、原発の廃炉解体計画と同時に、使用済み核燃料を再処理し危険なプルトニウムを燃やすプルサーマル運転がセットになっている。破たんした核燃料サイクル政策、プルトニウム循環方式にしがみつく計画を認めることはできない。</p> <p>ア 島根原発内にどれだけの使用済み核燃料が保管されているか。保管容量の残容量はいくらか。</p> <p>イ 島根原発から搬出され青森県六ヶ所村の再処理工場において保管されている使用済み核燃料はどれだけあるのか。同施設の保管容量の残容量はいくらか。</p> <p>ウ 使用済み核燃料の再処理技術は確立されておらず、実行性にも乏しい。核燃料サイクルは破たんしていると考え、市の認識を伺う。</p> <p>エ 島根原発2号機が再稼働すれば新たな使用済み核燃料が発生する。使用済み核燃料の搬出ができない現状からも再稼働の条件はないと考え、市の認識を伺う。</p>	
(2) 再生可能エネルギーの普及について	
<p>① 世界各地で、異常な豪雨、台風、猛暑、森林火災、干ばつ、海面上昇などが大問題になっており、気候危機とよぶべき非常事態が起こっている。気候変動による脅威と被害は、日本でも、「経験したことがない」豪雨や猛暑など極めて深刻である。今年7月には出雲市内でも集中豪雨をもたらす線状降水帯が発生し、住家等への浸水や道路の冠水、農業被害などが発生した。台風7号による集中豪雨では鳥取県内で甚大な被害をもたらした。</p> <p>CO2の削減が世界的課題となり、日本政府も「2050年カーボンニュートラル」をかかげている。地方自治体にも2030年までの地球温暖化対策推進計画を策定し、住民とともに実践の先頭に立つよう、責任を持った取り組みを加速することが求められている。</p> <p>ア 出雲市内での再生可能エネルギーの普及の現状と今後の展望について伺う。</p> <p>イ 島根県内でもメガソーラーや大規模風力発電の計画などが問題となるケースがある。再生可能エネルギーの普及にあたっては、地域住民の理解や環境・景観の保全などに十分な配慮が必要である。自治体としてのイニシアチブの発揮も重要と考えるが、市の認識を伺う。</p> <p>ウ 今年10月から始まるインボイス制度の導入によって、電力買取事業者は仕入れ税額控除ができなくなる。新たな税負担が生じることになるが、どのような対策が検討されているか。太陽光発電などを行う家庭などが課税業者になることが求められれば、負担が増え、設置する意欲が削がれ、普及への影響が懸念されるが、市の認識を伺う。</p>	

(3) 賃上げ実現へ事業者支援を

- ① 民間信用調査会社の帝国データバンクによると、今年すでに値上げしたか、今後の値上げを予定する食品を合計すると約2万9000品目となり、昨年を上回る見通しとなっている。深刻な物価高騰が続く中で、現状の生活を維持するためにも賃金上昇は不可欠である。
 - ア 島根地方最低賃金審議会から、県内最低賃金を47円引き上げ904円とするように答申が出された。賃上げの必要性についての市の認識を伺う。
 - イ コロナ禍、物価・原材料の高騰、過剰債務という「三重苦」が中小企業・小規模事業者にのしかかっている。新型コロナ融資、「ゼロゼロ融資」の返済なども迫られている。市内事業者の現状についての認識を伺う。
 - ウ 賃金の引き上げと合わせて、社会保険料の負担額も上昇する。市内事業者が賃上げできるよう支援が必要と考えるが、市の認識を伺う。

質問者	15 木 佐 宏
質問事項・質問内容	
<p>節操を失った市政その2 前長岡市長誕生後・平田行政区における県議の傀儡(かいらい) (1) い) 施策で数十億円の市税不当支出、平成の世直し人は看過出来ない！全ての市民の見識や如何に！</p>	
<p>① 本市の施策執行へ、旧平田地域での横暴な振る舞いを、容認、擁護共謀して来た関係者らの行為による西部地区統合小学校移転用地決定に視られる県議傀儡(かいらい)の本市の主体性を欠如した愚策による実害を全市民も目を背けず、責任の一端の自覚を乞う！</p> <p>県議傀儡の稚拙な施策の最大の被害者は、掛かる行為の事業により、現住居宅が恒常的水害被害家化した犠牲者に対する、飯塚市長の首長としての責任を果たす事は、被害者当該現住居を安全なる場所へ本市の責任において費用の全額負担を持って、速やかに転宅事業の実現不可欠・喫緊課題と確信する。私も市政執行の一端を担う一議員として、責任遁れや真の被害者に心を寄せぬ出雲市に恥ずかしさを認めない。此処に至る他事業においても、市政施策への不当介入の実例を法廷の場においても私の主張、訴えが微塵も揺るがぬ音声に因る証拠と膨大な書証物を所持している。あらゆる機会を通じ全市民の皆様へ真相、真実を明らかに厳しく糾弾し、県議傀儡の無責任出雲市政から脱出、真に全出雲市民の生活、経済、生命を守る、市民が誇れるリーダーが2年後には誕生する事を市民の皆様が願い速やかにアクションを起こされる事を切望するが、先ずは7月の水害で家族5人が救命ボートで脱出する情景を全国放送された被害者宅の人災を、出雲市は、市長も教育長らは何も手立てをしていない、『平成の世直し人・木佐宏』この俣放置させない。</p>	

質問者	14 本田 一 勇
質問事項・質問内容	
(1) 今年7月豪雨災害は、どうすれば良かったのか	
<p>① 今回は、大社の稲佐川周辺地域の水害についてのみ伺います。 令和3年豪雨災害と同じような地点で、再び災害が起きました。</p> <p>ア なぜ、床下・床上浸水を防ぐことができなかったか。原因は何か、どうすれば良かったのか伺います。</p> <p>イ 床下・床上浸水は、何時頃発生したか、分かれば教えてください。</p> <p>ウ 線状降水帯が発生する情報は、いつ市役所に入りましたか。</p> <p>エ 事前に、砂の入った土のうはありましたか。何袋ありましたか。</p> <p>オ 高さ30cmの土のうの壁を10m作ったら、何袋の土のうが必要でしょうか。</p>	

質問者	23 伊藤 繁 満
質問事項・質問内容	
(1) 21世紀出雲空港整備利用促進協議会（会長・飯塚俊之出雲市長）の活動内容及び中海・宍道湖・大山圏域市長会の役割について伺います。	
<p>① 島根県の空の玄関口である県営出雲縁結び空港は、中海・宍道湖・大山圏域の社会・経済活動をはじめ国内外から多くの観光・ビジネス客等の面において大きな役割を担っています。山陰の拠点空港として更なる役割が期待されていますが、その土台には昭和41年の開港以来、今日までに周辺住民の皆さまの多大なご理解とご協力のおかげであります。</p> <p>近年は新型コロナウイルス感染症の影響により空港利用客が平成30年の100万人台突破から比較すれば3割から4割台が続き、令和4年には8割台に回復し今後に期待されています。現在、国のインバウンド政策により観光客において一定の増加が目に見えてきつつありますがコロナ禍の3年間に於いて航空各社に対する支援及び航空路線のPR等積極的な活動がどのようにされてきたのか以下の項目について伺います。</p> <p>ア 21世紀出雲空港整備利用促進協議会の近年3か年の出雲縁結び空港利用客増加につながる活動がどのように推進されてきたのか、予算面についても伺います。</p> <p>イ 中海・宍道湖・大山圏域市長会では観光部門に重点を置いて積極的に取り組むこととされています。米子鬼太郎空港は活発に動きがありますが、出雲縁結び空港は圏域ではどのような位置づけになっているのか伺います。併せて今後の取り組みについて伺います。</p> <p>ウ フジドリームエアラインズ（FDA）は出雲－静岡便の休止、出雲－仙台便は運航終了と決定されたと報道されています。唐突な印象は拭えませんが、島根県はもとより、出雲市にとっても大変な痛手ではないでしょうか。今までの5年間余りの間に仙台市、静岡市、名古屋市及び経済界とのアプローチはされたのか状況と今後の取り組みについて伺います。</p> <p>エ 利用客の減少は経済活動全般において打撃となります。島根県も出雲市も人口は確実に減少し出雲市においては3年前に比較し人口は約2千人減少しています。ビジネス客は市が奔走しなければ増加しません。ビジネス客増加に向けた戦略を伺います。又、企業誘致を今以上に推進し県外からの社会増を図ることが必要です。人口増加に向けた対策を伺います。</p>	

質問者	9 今 岡 真 治
質問事項・質問内容	
(1) 少子化対策について	
<p>① 少子化の原因に対する認識を伺います。</p> <p>② 結婚支援について伺います。</p> <p>ア 出雲市における未婚化・晩婚化の状況について。</p> <p>イ 結婚支援の取組と成果について。</p> <p>③ 不妊治療費助成制度について伺います。</p> <p>ア 不妊治療費助成制度の概要と助成件数。</p> <p>イ 不妊治療の情報提供やきめ細かなサポート体制の構築が必要と考えますが市の見解について。</p>	

質問者	19 寺本淳一
質問事項・質問内容	
(1) ChatGPTなどの生成AIを学校でどのように活用していかれるのか。	
<p>① 人と会話しているかのように自然な文章で質問に答えるChatGPTなどの生成AI。全国では理科の実験や道徳の授業に使う学校も増えてきていると聞いています。授業設計や教材作成、問題・解答作成、解説作成など教員支援ツールとして活用でき、その結果、負担の軽減や授業づくりの準備に集中できるといわれている反面、児童生徒が正解を求めるだけで自らが考える力を失いかねないといった課題もあるといわれています。進化し続けるAIは正しい使い方をすればレベルアップさせるような学習サポートをしてくれます。今後、ChatGPTなどの生成AIを学校でどのように活用していかれるのか伺います。</p> <p>ア 現在、学校でのChatGPTなどの生成AIの活用状況は。</p> <p>イ 夏頃に文部科学省から学校現場でのAI利活用のガイドラインを公表すると聞いたがどのような状況なのか。</p> <p>ウ 学校や家庭でのChatGPTなどの生成AIを活用することへの注意点、また必要なスキルは。</p> <p>エ ChatGPTなどの生成AIを活用することで学校教育や家庭教育がどう変わるのか教育委員会の所感をお聞きします。</p>	